

## これからの活動

東京インテリアプランナー協会 会長 浦 一也

先日開催された総会で、会長就任のご挨拶を申し上げましたので、ニュースレターでは今後の活動について私の考えを述べます。

インテリアはいつみれば室内の生活環境や空間を指しますが、私たちはほとんど人工物に囲まれて生活をしています。建築というシェルターは大自然から人間の生活を守る人工物であり、その室内環境にあふれるモノは人工物であふれかえっています。人間まで人工物のように錯覚しそうですが、人間こそ自然の産物なのです。現代という時代はその自然物たる人間をもう一度認識し、考え直していくことが叫ばれている時代だと思っています。昨今「身体性」ということが盛んにいわれるゆえんでもあり、また「LOHAS」などといって健康で持続性あるライフスタイルも注目されていますが、これも人間の再認識の流れのひとつです。

私たちインテリアプランニングにかかわる者は人間の生活環境の専門家として、より深く人間や環境のことを分かっている必要があります。JIPATは営利団体ではありませんから、交流なども大切な柱ですが、その事業のひとつには自分たちの存在や根幹にかかわる調査や研究が欠かせないはずだと思っています。

昨年よりインテリアプランナー試験対策のために「教育普及特別委員会」を設置して事業のひとつに考えられていますが、私はその目的をさらに超え、「これからの社会における生活環境のありかた」を協会内で考えていきたいと思っています。そしてその研究の成果は展示であればIPEC21などの場で、または本であれば出版というかたちで、またはシンポジウムで…などいろいろなかたちで発信していきたいと考えています。このことは即、私たちの大きな命題である「インテリアプランニングとは何か」という問いに答えることにつながると思うのです。

私たちは何かをつくることで社会に問うということが出来るメンバーの集まりです。たとえば本をつくるなどということを通じて私たち自身の活動を確かめ、結束を確認し、社会への認知を図っていくというような、分かりやすく、よく見える活動を展開していきたいと考えています。



## ■ 途中下車 シンコール総合カーテン見本帳「メロディア2006-2008」

空間とファブリックが奏でる美しいハーモニー調和---そこから生まれる心地よい空気と豊かな時間  
Life style with Harmony---上質な日常を創るといふ贅沢。

新しいメロディアが伝えたいものは、住む人の気持ちと住空間の美しい調和です。

コーディネーションがテーマの新カテゴリー「ハーモニー」。  
12のカラーと2つの柄で創るバリエーション豊かな「コンビネーションスタイル」。  
表情豊かな中級品の充実と、新しいスタイルの提案を盛り込みました。  
インテリアのプロの方たちにぜひご覧いただきたいコレクションです。  
324柄869点の品揃えで、全国のシンコーグループにて7月4日から発売いたします。  
病院用カーテンが掲載されたコントラクトカーテン見本帳「タクトvol.10」は10月発売予定です。  
新しい機能性や新提案のネット一体型カーテンなどが登場予定。ご期待ください。



シンコールインテリア(株) 花村  
SINCOL INTERIOR <hanamura@sincol-it.co.jp>

## ■ 町名由来板 神田佐久間町3丁目

早いものでもう7月になりました。今月の4週目から学校は夏休み、夏休みといえばラジオ体操ですね。今回の町名由来板は神田佐久間町からお届けします。

JR総武本線沿いのせまい道を東に行くと、佐久間公園があります。もと佐久間小学校だった敷地を公園にしたもので、園内にはカエデ、ケヤキ、サクラなどが植えられています。

この公園がラジオ体操会発祥の地なのです。万世橋警察署の巡査がこの公園ではじめた「ラジオ体操の会(子どもの早起き大会)」が、全国に普及するきっかけになったからです。夏休みになるといまでもここでは、ラジオ体操がおこなわれています。この地からはじまった小さな運動が、途中、戦争で中断したものの、76年ものあいだつづけられ、全国に広まっていったのです。



江戸時代、この界隈には町人地と武家の屋敷地とが混在していました。「佐久間町」の名前の由来は、佐久間平八という材木商が住んでいたことに由来するとされています。江戸は火事の多い町として知られていますが、とくに享保年間(1716-1736)には、幾度となく大火に見舞われました。そのたびに町の一部に火除地や代地が設けられて南北に分断され、住民は移転を余儀なくされました。(大正12年1923)の関東大震災では、住民が一致団結して火事と闘いました。神田佐久間町三丁目は、江戸時代から続く由緒ある町名です。(佐久間町三丁目町会)





## ■ 知って知らない道具たち

「1級塗装（建築塗装作業）実技試験」の会場にお邪魔しました。緊張した皆さんの作業を見ながら試験官の大沢監督に話を聞きました。7年以上の実務経験者が受験資格があるそうで、合格者は1級塗装技能者の称号が付与されます。「職業能力開発促進法に基づいて、厚生労働省・都道府県、およびその委託を受けた職業能力開発協会が実施する塗装技能検定試験の合格者に与えられる称号。1～2級がある。建築塗装は、建造物をサビや風化から守り、素敵な景観を作り出すために重要な役目を果たしており、建築塗装技能士は、長期にわたって塗料が持続



する方法を計画し、目的に合わせた色を調合し、色ムラや塗り残しなどが無いように均一に仕上げるプロのこと。」そこで試験問題を見せていただいた。右の図のように決められた時間内に課題にそって、一坪ほどのベニヤにパテしごきをして、そこに鉛筆で線を引き、試験官から出された指定色を作り、図の左右は油脂ペンキで鉛筆の線よりはみ出さないように均等に塗り、中央は水性ペイントで仕上げ、乾燥した時、課題色と同一になるようにしなければならない。（右図参照）確かにでき上がった色の違う壁は見たくはありません。

平成17年度技能検定

1級塗装（建築塗装作業）実技試験問題

次の注意事項に従って、課題1、課題2及び課題3を行いなさい。

### 1、試験時間

	標準時間	打切り時間
課題1	4時間30分	下吹き3分 模様付け2分
課題2		4時間50分
課題3		3分

試験時間



試験問題

## ■ IPEC21-2006「デザイナーズ・ショーケース」出展者募集中！

インテリアのプロと企業をつなぐ国際展示会「IPEC21」では本年度もデザイナーズ・ショーケースの出展者を募集いたします。IPEC21のデザイナーズ・ショーケースは、デザイナーの皆さんが普段から温めておられるデザイン提案やアイデアをインテリア関連企業とのコラボレーションによって具現化させ「IPEC21」の会場で提案・発表するものです。



デザイナーズ・ショーケースは従来の展示会とは趣を変え、デザイナーが主役となる表現の場となっております。本年度は例年以上に規模も大きく、更に充実したものとなることが予想されます。

また、審査委員にはデザイン評論家の柏木博氏、東京デザインセンター代表取締役の船曳鴻紅氏が決定しております。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

(<http://www.ipec21.jp/2006/ds.html>)

お申込はホームページよりお申込書 ([http://www.ipec21.jp/2006/ds\\_applicationform.pdf](http://www.ipec21.jp/2006/ds_applicationform.pdf)) をダウンロードし、必要事項をご記入の上事務局までFAXにてお申込下さい。E-mailでも受け付けております。詳しくはホームページをご覧ください。

### IPEC21-2006 インテリアのプロと企業をつなぐ国際展示会とセミナー

会期：2006年11月22日[水]～25日[土] 10：00～18：00（最終日は17時終了）

会場：東京ビッグサイト西展示棟 西2ホール+アトリウム

事務局：TEL：3-5261-5021 E-mail：ipec@delphi.co.jp URL：http://www.ipec21.jp

同時開催：JAPANTEX、すまい・建築・都市の環境展ecobuild、東京国際家具見本市、東京国際木工機械展

## ■ 新役員

東京インテリアプランナー協会 平成18年度新役員は以下の通りです。（詳細はジャーナル12号に記載されていますのでご参照ください）

【会長】 浦 一也

【副会長】 志村 美治

席屋 正

霜野 隆

### ○各委員長

総務委員会 松澤 敏高

情報委員会 羽沢 昌子

事業委員会 高島 幸一

会員交流委員会 佐藤 勝

国際委員会 田中 博美

会員増強委員会 竹村 尚久

教育普及委員会 寺本 昌志

### ○法人会員の会

代表幹事 富田 順三

## ■ 編集後記

読み応えのあるニュースレターにするようにとの伝達が届き、情報委員会としても前向きに取り組んで行く所存です。会長も「私たちは何かをつくることで社会に問うということが出来るメンバーの集まりです」と言われており、幅広い情報を収集したく、会員皆様からのニュースを是非お寄せ下さい。

news@jipat.gr.jp

